



桜川保育園

〒300-0048 土浦市田中三丁目4番5号

【TEL】029-821-8341 【FAX】029-823-0390

【E-mail】sakuragawa@showfukai.com

【URL】https://showfukai.com/

【発行責任者】施設長 宇都野 和司

※掲載写真は、保護者の同意を得ています。

桜川保育園 だより



枝豆がこんなに大きくなったよ!!



最近よく耳にする『SDGs（エス・ディー・ジース）』は、世界中で起こっているさまざまな問題を解消するために掲げられた17の持続可能な開発目標です。当園では、これまでも「食育」に力を入れながら、積極的に食品ロスをなくすことや、節電、廃材利用、ペーパーレス化などの環境を守るための取り組みのほか、野菜の栽培や収穫をとおして『SDGs』に係わる活動を続けてきました。

一つの例として、「食育」に関するものでは、5歳児行事の『夕涼み会』（7月に開催）の夕食の具材を自分たちで準備するなど、「食事を作りたいへんさ」「みんなで食べる楽しさ」を体験する取り組みを行っています。

このように、「食」ひとつを取り上げてみても、食への大切さや毎日ごはんが食べられることへの感謝等を学ぶことができ、「貧困や飢餓」「健康」「水や自然の豊かさ」など、『SDGs』のたくさんの目標にも繋がっています。

目標達成期限の二〇三〇年まで、あと7年です。一つしかないこの地球で、私たちが暮らし続けられるように、職員一人ひとりが『SDGs』を強く意識し、子どもたちと一緒に考え行動しながら、少しでも多くの目標が達成できるように、身近な課題に取り組んでいきたいと考えています。

今回の「桜川保育園だより」では、当園の『SDGs』の取り組みを特集しましたので、ご覧ください。

子どもたちとともに 保育園でできる『SDGs』

ゆめ組 〇歳児

たくさん遊んで
健康な身体と
心を育む



ゆめ組では、信頼関係のある保育士とともに、健康な身体と心を維持するために、様々な遊びを楽しんでいます。その様子を紹介します。

保育室に『SDGs』のピクトグラムの表を飾り「あか」「あお」と言って、色を指差しするなど『SDGs』を



保育の中に取り入れながら楽しく過ごしています。
戸外では、数人が乗って移動できる、「お散歩カート」に乗りたり、おんぶや抱っこをしたりして、近隣散歩に出かけるなど、日差しや風を肌で感じながら自然と触れ合っています。
戸外遊びの後や食事前には、保育士と一緒に手洗いや手指消毒をし、感染症予防にも気を付けながら健康に過ごせるようにしています。
室内では一人ひとりの成長に合わせて、マットで作った



ホールにはみんなが大好きな室内遊具がいっぱい♪



帰って外からきたら手を洗おうね!!



山やバランスストーン、柔らかいボール、その他のいろいろな遊具を使いながら、歩行するための基礎となる力やバランス力を養えるように「ずり這い」「ハイハイ」「つかまり立ち」など、全身を使った動きをたくさん取り入れています。



ペットボトルでジョウロを作り、プールで“ジャー ジャー”



廃材を使った楽しい玩具や壊れても直すことができたり、つまんだりひっぱったりしながら音や動きを楽しむことをおして、もの大切さを伝えていきます。
また、食品ロスを減らすために一人ひとりの食べる量を把握したり、その日の体調や機嫌に応じて配膳の量を調整したりと、残飯を出さないように心掛けています。
食えることができた喜びと達成感を味わえるように、食事中には「おいしいね」と言葉を掛けながら、楽しく食事を摂ることができるよう、子どもたちに話しかけていきます。



身体を動かしながらも時々休憩して愛情を充電...



頑張ってるよ!



はな組 1歳児

新聞紙で遊んだよ★



『SDGs』の17の目標のうち、12の「つくる責任・つかう責任」に関わる取り組みでは、廃材を使った遊びの一つとして、「新聞紙遊び」を行っています。大きく広げた新聞紙をビリビリと破ったりクシャッと丸めたりして、音や感触を楽しみながら手指を動かす遊びです。

保育者が丸めた新聞紙を輪にして子どもたちに渡すと、それを頭にのせてお寿司屋さんの大将に変身する子や「ブーブー」と言いながら、輪を車のハンドルに見立てて室内を歩いてドライブの真似をする子、女の子では、新聞紙を洋服のように巻き付けてファッションショーをするなど、思い思いの楽しみ方で遊んでいました。また、細かく破った新聞紙を雪のように降らせると「わあ！ゆきだあ」と歓声を上げたり、部屋中いっぱい降り注いだ新聞紙の雪を新聞紙



で作った小さなホウキで掃除したりするなど、降らせては掃除をすることを何度も何度も繰り返していました。掃除をする際にも、「さーさーさー」と声を出しながら自分の足元をきれいにしている子、部屋の隅や机の上を掃いている子など、掃除の方法は様々でしたが、後片付けをすることも上手にできるようになり、子どもたちなりに新聞紙という一つの材料でたくさん遊びを発展しな



わあ！ゆきだあ！



おそうじしよう！



から、興味をもって「新聞紙遊び」を楽しむことができました。

これからも、資源となるものを大切にし、リサイクルが可能なものはできるだけ保育中の制作活動などでも再利用し、幼いころから自然に『SDGs』



メダカは大きくなったかなあ？

年度当初からメダカの飼育をしています。子どもたちも興味をもち、「メダカが見たい」と指さしをして保育者に意思表示があった時に、水槽を子どもたちの目線の高さに合わせて設置すると、上や横から覗き込んでメダカの動きを観察しています。

みんなで餌やりを行うと、餌を食べる様子を不思議そうに眺め、口をパクパクさせて食べる仕草を真似するなど、互いに顔を見合わせながら観察を楽しんでいます。

メダカの飼育をとおして、餌やり、水換えなどの環境保全に関わることや命が育まれる姿を間近で観察することにより、さまざまな生き物に興味をもちたり大きくなってから命の大切さや環境との関係性を考えたりすることへのきっかけづくりになることを期待しています。

今後も生き物の飼育をとおして学べる命の大切さ、自然の尊さを子どもたちに伝えていきたいです。



いた！

どこかな～？



うごいてるよ！



にじ組 2歳児

廃材あそびで 金魚すくい



子どもたちが大好きで繰り返し読んでいる『もったいないばあさん』の絵本。お皿がきれいになるように食べたり手洗いの際に水を使い過ぎていないか気にしたりと「もったいない」という言葉の意味を理解し実践してくれるようになりました。

絵本の中に、くしゃくしゃになった紙が再利用されて怪獣スーツになるというお話がありました。



見て見て!!
すくえたよ!!★

12 つくる責任 つかう責任



みんな大好き
『もったいない
ばあさん』



うでした。
自分たちで作ったものには愛着も湧き、大切に扱うようになりますので、これからも身の回りのものを使って遊ぶ楽しさや「もったいない」と思える気持ちを育んでくような保育を目指していきます。

アサガオの種を
まいたら...!?

アサガオの種を一人一粒プランターに植えました。保育者が「水をあげると芽が出て綺麗な花が咲くんだよ」と話すと、「何色のお花かな?」「早くお花見たいね」と期待しながら、指で「ちよんちよん」と土にくぼみを作り、上手に種を植えることができました。



も『笑顔の花』が咲いたように感じました。
日々の観察をとおして植物を育てることを楽しんだ後に花が咲き終わり、種の収穫も

体験したアサガオの栽培では、自然の移り変わりを学び、好奇心を育みながら植物に親しみ、自然の大切さに触れることができました。



種も
できた!

何色のお花
が咲くかな



おたまじゃくし
あおむしを
育てたよ!

園舎裏の田んぼを散策するとたくさんのおたまじゃくしを見つきました。生き物が大好きな子どもたちから「カエルになるまで育てたい!」という声が上がったので、保育室で飼育することにしました。

毎日、登園してくると一番に水槽を覗き込み、「足が出てきてるよ!」「見て見て!手も見えてきた!」などと興奮気味に日々の成長を楽しんでいました。「今日は僕が

餌をあげたい!」などと積極的な飼育に参加してくれるようになり、カエルに成長した時には「みんなで大切に見守りながら育てたからカエルになれたんだね!」と全員で喜び合っていました。

また、蝶の観察では、さなぎから蝶に成長して飛び立つ時も、蝶の姿が見えなくなるまで、みんなで手を振って見送りました。子どもたちにとって、命の大切さを実感できた瞬間ではなかったでしょうか。

15 陸の豊かさも
守ろう





ほし組では、絵本や紙芝居をとおして、ものを大切にすることを子どもたちに伝えていきます。最近、子どもたちと一緒に読んだ「もったいない!」という紙芝居について紹介します。

『もったいないの箱』で無駄をゼロに!!

ほし組☆3歳児

12 つくる責任 つかう責任



紙芝居の中では、工作で使っていた折り紙の切れ端やティッシュペーパーの芯をゴミ箱に捨ててしまった時や水を出したままにしている時など、「もったいない」の場面を見つけると、「もったいないロボ」が登場し『まみむめももも』という言葉を覚えてくれるのです。

『まみむめも』は、それぞれ「まだつかえるよ」「みずはとめてね」「むだづかいはだめ」「めざせ おさらピカピカ」「もったいない」という意味があります。紙芝居が終わった後、子どもたちは、ものや食べ物、水を大事にするということを「もったいないロボ」と約束しました。



最近では、ハサミやのり、セロハンテープなどを使って紙工作を楽しむ時間も増え、その際に出る紙の切れ端なども「もったいないロボ」に教えてもらったように、自分たちで作った「もったいないの箱」に入れるようにしながら再利用しています。また、お菓子の空き箱やトイレトーパーの芯などの廃材を使い、紙芝居のヒーローである「もったいないロボ」を制作中です。

どんなものを作ろうかな～？ ティッシュ箱がロボットになった♪



めざせ！お皿ピカピカ！！

2 飢餓をゼロに

給食の残飯をなるべく出さないようにと、配膳の量を工夫し、自分で食べられる量を選び、ご飯粒一粒残さず、最後には「めざせ おさらピカピカ」を心掛けています。「食べることは生きること！」であるので、食べ物への興味や関心を広げながら、作ってくれた人への感謝の気持ちを忘れずに、毎日給食を食べています。



自分が食べられる量はどれかなあ？



「もったいないロボ」から教えてもらったこと

まみむめも
まだつかえるよ
みずはとめてね
むだづかいはだめ
めざせ
おさらピカピカ
もったいない

「もったいない」という気持ちをもって、身の回りのものを大切にすることは、地球や環境を大切に思って行動する力に繋がると信じ、未来のために自分で考え、行動できるようになって欲しいと願っています。
世界中が笑顔であふれますように!!

つき組 4歳児



「食育学習」に参加したよ！

つき組では、今年度初めてカスミの「食育学習」に参加し、食事や栄養について学びました。

「食育学習」では、栄養素の3つのグループについて、



3大栄養素

アカツチは、骨、筋肉、血液を作る食べ物(肉、卵、大豆乳製品など)、キータンは、エネルギーの源になる食べ物(炭水化物、糖分、イモ類、油、海藻など)、ミドリンは、体を病気から守る食べ物(野菜、きのこ、フルーツなど)であることを、子どもたちが馴染みやすいようなキャラクターを使いながら、わかりやすく教えてもらうことができました。

子どもたちは、この3つの栄養素がすべてそろった食事をすると良いことを知り、その日の給食からさっそく、アカツチ、キータン、ミドリンがそろっているのかどうかをみんなで確認し合いながら、桜川保育園の給食がバランスの良い食事であることを知ることができ、いつも以上においしそうに給食を食べる姿や、完食をめざそうとする姿が見られました。

また、「ファイブ・ア・デイ」という言葉を教えていただきました。これは、握りこぶしの大きさの野菜料理を、1日に5回食べようとする意味です。そのほかにも、「野菜クイズ」に答えたり「なぞなぞボックス」で中に入っているものの名前を当てたり、スーパリーの「バックヤード」の様子を教えるなど、子どもたちの興味を引くような楽しい学習が盛りだくさんでした。子どもたちは、自分自身の食事や健康について考える良い機会になったようです。



トウモロコシの皮むきをしたよ！

夏には、トウモロコシの皮むきにも挑戦しました。普段食べ慣れているものと違った形のトウモロコシに、最初は少し戸惑う様子もありましたが、緑色の皮をむき始めるとすぐに黄色く見慣れた硬い粒を発見し、子どもたちは大喜びでした。

「ものすごく、かたいよ」と感触を楽しむ子、「変なおいがするよ」と独特な青臭さに気づく子、「どうやったから食べられるの?」と調理方法を問いかけてくる子など、子どもたちは楽しさと興奮の中、探求心を刺激された様子で、たくさん質問をしてくれました。この経験をとお



して、トウモロコシがどのように生産されて加工されるかを学び、深く興味をもったようです。今後、季節の食材に触れ、簡単な調理体験の機会を保育に取り入れながら、作ってくれる人への感謝の気持ちを忘れないことや食の大切さ、そして、持続可能な食事習慣の重要性を学べるような活動を行っていきます。



そら組 5歳児



今年度、そら組では「ナス」「きゅうり」「トマト」「枝豆」「ピーマン」の5つの野菜を育てました。5月頃に「おおきくなーれ、おいしくなーれ」と声を掛けながら苗を植えました。今夏は猛暑の日が多かったのですが、なかなか子どもたちで水やりをすることができませんでした。それでも水やりの時は「やりたい」と積極的に取り組んでいました。また、保育者が野菜の手入れをしていると、自分



大きいナスができたね！



たちで進んで草取りをする姿も見られました。野菜が実り始めると、「大きくなっていく!!」「まだ収穫しないの?」など、野菜の成長を喜びながら収穫を心待ちにし、収穫した野菜は各自で持ち帰りができました。自分たちで育てた野菜には特別な思いがあるようで、「食べるのは苦手だけど、持って帰りたい」「自分で作ったから少し食べたよ」と野菜



トマトを収穫したよ！



初めての収穫★

への関心も深まっています。また、「星形のきゅうり」の栽培も暑さが厳しくたいへん苦戦しましたが、無事に作ることができ、子どもたちは大喜びでした。「星形のきゅうりは」、調理担当の協力により、薄くスライスして給食にトッピングしたことで、きゅうりが苦手な子どもも、自分たちで作った野菜の味を美味しく味わっていました。



すりすり Wash
のびのび Wash~♪

Wash Your Hands



3 すべての人に
健康と福祉を



新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症拡大を予防するために、手洗いやうがいを忘れずに行うような取り組みをしています。

外遊びのあとや食事の前後、排泄後の手洗いなど、つい忘れてしまいがちですが、最近では「手は洗った?」と子ども同士で声を掛け合うようになっています。

手洗いが楽しくなるように、みんなで「手洗いソング」を歌いながら、効果的な手の洗い方を覚えることができました!!



調理室でできる『SDGs』 食育活動と食品ロスの削減

調理室では、子どもたちに安心安全で美味しい給食を食べてもらおうと、日々相談しながら給食を作っています。その中で、『SDGs』に繋がる取り組みとして「食品ロスの削減」に向けた「廃材の活用」や「食育」など力を入れていきます。

廃材の活用として、調理工程で出る「出汁がら」をフードプロセッサーで粉碎し、それに調味料を加えて栄養満点のふりかけを作っています。手作りのふりかけは、給食の

廃棄を減らすだけでなく、子どもたちからも大好評で、「美味しい！」という声や、「どうやって作ったの?」と栄養士に聞く子どももいるなど、食への関心が高まっているように見受けられます。

また、当園では食材に触れる経験の機会を多く設けています。一例として、自分たちで野菜の栽培を行って収穫したり、育てた枝豆を1さやごとくに切り離したり、給食で使うトウモロコシの皮むきをしました。このような経験をす



ることで、子どもたちは栽培を通じて野菜も生き物であることや、種や苗から食べるまでに育てて調理するたいへんさを知ることができ、「食べ物を大切にしよう」「残さず食べよう」という食べ物への感謝の気持ちの芽生えにつながっています。

その他にも、1週間に1回栄養士が各クラスで子どもたちと一緒に給食を食べる活動を行っています。子どもたちから好きな食べ物を聞いたり残食が多い給食などを直接見たりすることで、その後の献立作りに生かすことや一緒に食べることで給食を作っている人との繋がりを意識することができるので人に対する感謝の気持ちも育っています。

子どもたちからの「作ってくれてありがとう」の言葉は、食育活動の成果を実感できるとともに私たち給食を作る側のやりがいにもなっています。

これからも、『SDGs』の取り組みでの一つである「食品ロスの削減」を着実にしながら、食べる楽しみを子どもたちが十分に感じられるような給食づくりを行っていききたいと思います。



廃棄物利用 コキアで ホウキづくり 講座

(9月9日)



当園では、正門の両側や駐車場の周りにコキア(和名:ほうき草)を植栽し、大きくなったものに飾り付けをし、毎年「コキア『顔』コンテスト」を開催したり「トトロ」に見立てたりして子どもたち

の目を楽しませています。そのコキアを再利用し、『SDGs』の取り組みの一つとして、職員を対象に「ホウキづくり体験講座」を開催しました。
ホウキは、掃除機と違って騒音がなく、時間を選ばずいつでも掃除ができることや掃除機では届かない狭い場所の掃除がしやすいこと、また、電気を使わずに済むことから、たいへんエコな道具です。園内をきれいに保つために、これからもたくさん作って大いに役立てていきます。



「グリーンカーテン」で節電！！

第11回「土浦市グリーンカーテンコンテスト」
事業者部門で「最優秀賞」を受賞！！



園舎北側は、夏の時期、午後になると強い西陽が差し込み、部屋の温度が大きく上昇することから、ゆめ組(0歳児)の部屋の2か所の窓に「グリーンカーテン」を設置しました。

植物の種類は「琉球朝顔」と呼ばれているもので、数本の苗から挿し芽(伸びた苗を切って土に挿しておくこと)で100本程度に増やし、プランターへの苗植えだけでなく、猛暑に耐えられるように地植えも同時に行いました。ツルが伸びるにつれ、摘芯(伸

びたツルを途中で切る)して、さらにそこから新しい横芽を出し、全体の高さを揃えながら伸ばしたことにより、大きな葉が密集し全体を均等に揃えることができました。

その結果、清涼感はもちろんのこと、遮光効果も十分に得られたことや、葉の蒸散作用により「グリーンカーテン」の内側と外側で、最大5℃以上の温度差が生じた日もあり、エアコンの設定温度を下げることなく節電ができ、『SDGs』にも繋がっています。



◆挿し芽で増やした苗をプランターに移植し、西側の窓際に配置(6月21日)



◆2か所にポールを立てネットを設置(6月21日)



◆伸びた苗からさらに挿し芽で苗を増やし、約40本を地植え(7月7日)



◆数個の花が咲き、約2mに成長(8月4日)



◆縦3m×横4mに成長し、完成した「グリーンカーテン」(8月24日)



◆室内から見た「グリーンカーテン」(8月24日)

成長の記録

桜川保育園まつりの売上金 社会福祉協議会に寄付

6月24日(土)に開催した「桜川保育園まつり」において、保護者や地域の方々に販売したマリーゴールドやサルビア、コキア、ラベンダーなどの花苗 260本の売上金 13,000円を、6月30日(金)に土浦市社会福祉協議会に寄付しました。

花苗は、市から配布されたもののほか、昨年収穫した種を撒き、保育園児や職員がそれぞれ交代で水やりや草取りをしながら育てたもので、植物の成長の過程を知るために子どもたちが毎日観察してきました。

売上金を寄付することについては、保育活動の中で「社会のために役立てることができる」ことを子どもたちに伝えるとともに保護者の皆様にもご理解をいただきました。

土浦市社会福祉協議会の加藤史子常務理事から「子どもたちが一生懸命育てた花の売上金を児童福祉のために大切に使用させていただきます」と感謝のお言葉をいただきました。保護者の皆様、ご協力ありがとうございました。



第52回「花いっぱい運動コンクール」において、今年度も最優秀賞となる「土浦市まちづくり市民会議議長賞」を受賞し、3連覇を達成しました。

門の両脇から駐車場の花壇には、マリーゴールド、サルビア、ラベンダー、コキアなど五〇〇本以上を配置し、日常保育の園庭遊びの中で、植物や花の成長について園児に伝え、緑や草花の生命の大切さを学びながら、保育士も子どもたちと一緒に観察



してきました。

や花壇の手入れができる時間を設けています。子どもたちが植物などの生き物に興味をもち、その好奇心を手掛かりに「いのち」の大切さを実感できる体験は、「SDGs」の「陸の豊かさも守ろう」の目標の一つに繋がっていきます。今後も花づくりを保育活動の中に取り入れながら、来年度も「花いっぱい運動コンクール」の『最優秀賞4連覇』を目指してみんなでチャレンジしていきたいです。



桜川保育園で実践している『SDGs』の課題

当園では、現在17ある目標のうち、以下のとおり、保育園で実施可能な9つの目標のそれぞれの課題について、積極的に取り組んでいます。ご家庭においても、お子様と一緒に『SDGs』を意識しながら、できることから実践してみてください。

- ・ 家庭における子育てを支援する
- ・ 質の高い保育を行う環境を整える
- ・ さまざまな体験と経験をおとして学びを提供する
- ・ 質の高い保育を行う環境を整える
- ・ 男の子と女の子がともに仲良く過ごせる環境を実現する
- ・ 電気やLED照明の活用など省電力を意識する
- ・ 保育士の業務負担を減らす

第52回 花いっぱい運動コンクール

最優秀賞 3連覇



- ・ やりがいをもって保育に取り組める体制をつくる
- ・ 避難訓練の実施や災害時の備蓄品を準備する
- ・ 昆虫や動物、植物と一緒に育てる
- ・ 「ゴミのリサイクルや分別を実施する
- ・ 無駄な備品を購入しないようにする

- ・ 子どもの預けやすい環境をつくる
- ・ 避難訓練の実施や災害時の備蓄品を準備する
- ・ 昆虫や動物、植物と一緒に育てる
- ・ 園庭に植物を多くして緑の大切さを伝える
- ・ 「ゴミのリサイクルや分別を実施する
- ・ 無駄な備品を購入しないようにする